



さくらネット

令和5年(2023年)2月28日

「私の主張発表会」より:その2

【私の主張】

「命の大切さ」 岩元 晴花さん【優良賞】

世界中の人や動物、虫、植物にも命があります。命は世界中のみんなに平等に与えられた、とても大切なものです。

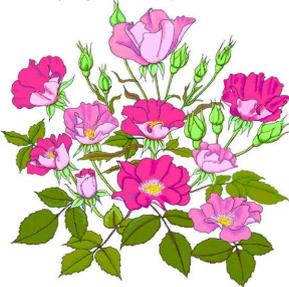
しかし、いつかは命もなくなってしまいます。これは世界中のすべての命に共通することです。命一つなくなってしまうということは、とても悲しく寂しいことです。

私のひいおばあちゃんは、私が小学四年生の時に九十三歳で亡くなりました。ひいおばあちゃんは、とてもやさしく、みんなのことをまるごと受け入れてくれるすてきな人でした。九十歳になっても、私たちに会うために愛知県から来てくれていました。私は、そんなひいおばあちゃんが大好きでした。

ひいおばあちゃんが亡くなる数日前、私はお父さんに、「おばあちゃん入院することになったから、今度お見舞いに行こうか。」と言われました。私は久しぶりにひいおばあちゃんに会えるということでワクワクしていました。でも、ひいおばあちゃんは、その日を迎えることができませんでした。私はとても悲しくなりました。今までにない感情だと思いました。それと同時に、こんな気持ちになる人が、一人でも少なくなればいいなと思いました。

そんな中で私は今、気になっていることがあります。それは、近年自ら命をたってしまう人が、増えてきていることです。私はどうしても、自ら命をたってしまう人の気持ちが分かりません。それは当たり前のことかもしれません。自ら命をたってしまった人の気持ちも、その理由になった出来事も、私は知りません。その先も、分からないと思います。

でも、自ら命をたってしまうのは、周りの家族や親せき、友達が一番悲しむ行いだと、私は思います。そして、その人を直接知らず、ニュースや新聞でそのことを知った人も、きっと悲しくなると思います。自ら命をたつという勇気があるのなら、生きていてほしかったなど私は思います。





「自分の命は自分で守れ」と、よく言われます。自分の命を守れるのは自分しかいないのに、自分から傷つけるのはとても悲しく残念なことです。

世の中には、生きたいと思っている人がたくさんいる中、自ら命をたってしまう人が増えてきていることを、私はとても悲しく思います。人が一人亡くなるということは、とても悲しく寂しいことです。つまり、自分の命は自分だけの命ではないということです。このことを私は、ひいおば

あちゃんが亡くなったことで、今まで以上に実感しました。

みんな平等に与えられた命を、大切にしていきたいと私は思います。そして、みなさんにも大切にしていってほしいと思います。いくら悲しい出来事があったとしても、命があるだけで、自分は幸せなんだと思うことが大切だと思います。

私はまだ十三年しか生きていません。これからの長い人生、何があるかはだれにも分かりません。きっと、うれしいこと、悲しいこと、楽しいこと、苦しいこと、たくさんあると思います。でも、これは命があるから感じられることです。

私は、何歳、何十歳になっても、命の大切さ、命があることの感謝を忘れずに、生きていきたいです。

入学説明会開催 ～希望の春に向けて～

2月24日(金)、大雪のため予定より約1ヶ月遅れの開催となった入学説明会を行いました。来年度入学予定の6年生65名と保護者の皆様を体育館にお迎えして、まず説明を行ったのは生徒会総務役員の5名です。

6年生に対して事前にアンケート調査を実施していた総務役員は、受けた質問に対して丁寧に回答しながら、中学校生活の様子を紹介しました。堂々とした態度で話をする総務役員の姿は、まさに本校のリーダー



にふさわしく、

そんな先輩の姿を見た6年生の皆さんも、きっと頼もしく思ったことでしょう。準備・練習を重ねて役割をしっかりと果たした総務役員の皆さん、お疲れさまでした。

さて、いよいよ明日から3月。春はもうすぐそこです。進学する人も、進級する人も、希望の春をイメージし、今すべきことに真剣に向き合い、全力で取り組みましょう。自分の力で未来を切り拓いていくために。